



説教要旨「約束を信じて待つ」

使徒言行録1章 1～5節

使徒言行録には、教会がどのようにして誕生して、どのように歩いていったのか、ということが“使徒”と呼ばれる弟子たちの働きを描くことで語られていきます。この使徒たちの働きによって、イエス・キリストによる神の救いが全世界へと広まっていくのですが、このときの使徒たちにはまだ、その働きをなしていくために欠かせないものが備わっていませんでした。それが、「父の約束されたもの」(4節)、つまりは聖霊降臨＝ペンテコステの出来事です。この聖霊の導きによらなければ、イエス・キリストの使徒となること、イエス様の思いを自らの思いとして歩む者とはなれないからです。

使徒言行録に描かれている初代の教会の物語は、使徒たちがしゃかりきに頑張って成果を挙げていくような姿ではなくて、使徒たちが様々な試練に遭いながらも、聖霊の働きによって成長させられていく姿が描かれていきます。ですからイエス様は使徒たちに、エルサレムを離れず、まず約束の聖霊を待つように命じられたのです。

わたしたちはこの“待つ”ということができずに、焦って自分であれこれ動かたがります。神様が道を示して下さるのを待たないで、自分で何とかしようと余計なことをしてしまうのです。自分の思いを神様の思いにすり替えたり、自分の価値観で神様を判別したりして、思い通りにならないことを神様のせいにしてしまうわたしたちです。しかし、聖霊の働きはそんなわたしたちとは真反対です。まず、神様の思い、それがあって、わたしたちの身勝手な思いをその神様の思いへと導いていく、それが聖霊の働きです。

聖霊は、わたしたちの心の目を開いて、聖書を悟らせます。聖書に語られているイエス・キリストの十字架の死と復活が、わたしのためになされたことであり、神様が独り子の命さえも与えて下さるほどにわたしを愛していて下さるということの確信へと、わたしたちを導くのです。この聖霊の働きを信じて待つとき、わたしたちにもまた、聖霊の導きによる成長が与えられていくのです。

(2021・5・30 説教者：稲垣真実)